

1 平成30年度の各種検査、調査等から考察される児童の実態

- (1) N R T 学力検査（2・3年校内学力検査、4・5・6年苫小牧市統一学力検査）
 - ・偏差値50を上回ることができたのは2学年の国語・算数だけである。
 - ・同一集団の経年変化では、5・6学年の算数で前年度の偏差値を上回ったが、3学年以上の国語と3・4学年の算数は前年度の偏差値より下がり、一層課題が大きくなった。
 - ・領域別で見ると、国語は、全学年で書くこと・言語事項の領域に課題があり、算数は、3学年以上で、全ての領域に課題が見られた。
- (2) 全国学力・学習状況調査
 - ・国語Aは、平均正答率が全国平均を5.7%下回っていた。正答数分布は、中・上位層が厚く、領域では「話すこと・聞くこと」だけ全国平均を上回っていた。
 - ・国語Bは、平均正答率が全国平均と同等であり、正答数分布は、中位層が厚く、領域では「話すこと・聞くこと」で全国平均を上回り、「書くこと」も全国平均と同等であった。
 - ・算数Aは、平均正答率が全国平均を4.5%下回っていた。正答数分布は、中位層が薄く、下位層と上位層が暑くなっている。領域では、特に「図形」で大きな課題が見られた。
 - ・算数Bは、平均正答率が全国平均を6.5%下回っており、正答数分布は、下位層と中位層が厚く上位層が薄い。全ての領域に課題が見られた。
 - ・理科は、平均正答率が全国平均を3.3%下回っていた。領域ではA区の「物質」で全国平均を大きく下回り、「エネルギー」分野については大きく上回っていた。B区分「生命」「地球」については、全国平均と同等であった。
- (3) 児童アンケート、生活リズムチェック
 - ・児童アンケートで「学校は楽しい」に肯定的な児童は91%であり、前年度を上回ったが、1学期末実施結果より「そう思う」が10%下がっていた。
 - ・児童アンケートで「勉強はわかりやすい」に肯定的な児童は93%であった。
 - ・児童アンケートで「毎日、家庭学習をする」に肯定的な回答をした児童は82%（土日は64%）であり、家庭学習の目標時間の達成割合についても課題が見られる。（達成率：1学年94%、2学年55%、3年62%、4学年38%、5学年53%、6学年49%）
 - ・インターネット等利用状況調査で、平日、6学年の3割近くが「メディアに3時間以上接している」と回答している。
 - ・生活リズムチェックシートで睡眠時間は各学年ともとれている学習時間とテレビ等視聴時間等のバランスのとれた家庭生活習慣の改善が必要である。

2 学力向上推進の重点

- ・「学年×10+10分」以上の家庭学習時間と「自学自習」の推進
- ・家庭生活習慣の改善
- ・学習規律の徹底と基礎基本の確実な定着

3 達成目標

- (1) 全国学力・学習状況調査において、全国の平均正答率を上回る。
- (2) 苫小牧市統一学力テスト及び学校独自で実施の学力検査において、同一集団の国語・算数の偏差値を前年度より上回る。

4 具体的な到達目標

(1) 学習規律の徹底

- ・「しっかりと話を聞くことができる」の割合を90%以上にする
- ・「授業の前に学習準備ができている」の割合を95%以上にする。

(2) 授業改善の取組

- ・「国語・算数の勉強がわかりやすい」の割合を90%以上にする。

(3) 家庭学習の取組

- ・「毎日(月～金)家庭学習に取り組んでいる」の割合を90%以上にする。
- ・宿題も含め、家庭学習の時間のめやす(学年×10分+10分)を達成している割合を低学年90%以上、高学年80%以上にする。

5 目標を達成するための具体的な方策

(1) 児童の学習意欲、学習態度の醸成

- ・各種学力調査やチャレンジテスト等を活用した個人・学級課題の明確化と改善に向けた具体的な取組(個人・学級の達成目標や取組内容の決定)
- ・算数における少人数指導・習熟度別指導の充実(意欲を高める工夫)
- ・全ての教育活動における言語活動の充実(書く力を高める活動の重視)
- ・学習規律の定着に向けた全校的な取組(がんばり週間・児童会の取組)
- ・生活リズムチェックシートや家庭学習の手引きを活用した家庭学習習慣の定着に向けた指導の充実(意欲を高めるための掲示や通信等の活用)
- ・朝学習(15分間)や放課後学習、長期休業の学習会など、児童の課題を踏まえた補充学習の実施(チャレンジテスト等の活用)

(2) 教師の授業力向上と学級経営の充実

- ・授業の焦点化・イメージ化・視覚化の徹底、共通取組事項の実施
- ・研修を通じた授業改善(LIT授業等の公開授業へ1回以上、教育研究所等の研修講座へ2回以上の参加、ハンドブックを活用した校内研修)
- ・学級経営交流会の充実(学習規律、授業改善、家庭学習の取組の見直し)
- ・年3回の児童アンケート等による授業評価の実施、分析及び授業改善
- ・教室や廊下の掲示や言語環境など学習環境の充実

(3) 学校間の連携

- ・学校教育力向上エリア会議の取組の推進
- ・小小連携の推進(学力向上に資する連携した取組、錦岡小との研修交流)

(4) 家庭・地域との連携

- ・「とまこまい学びの3か条」の普及促進
- ・生活リズムチェックシートを活用した生活リズムの点検と改善
- ・「家庭学習の手引き」配布等による家庭学習についての情報提供
- ・学習内容を記したシラバスの配布
- ・PTA組織と連携した子育て研修会の開催
- ・学校便りや通信、懇談会等を活用した保護者との課題意識の共有

6 実施計画と実施担当

| 実施計画 | 計 画 内 容 | 学力向上 推進委員会 | 分掌・各委員会担当 | 担 任 |
|-------|--|---------------|--------------------------|-----------------|
| 3月 | ○新年度学校改善プランの提示 | ◎ | | |
| 4月 | ○学校改善プランを位置付けた学級経営案の交流 ○家庭学習の手引き作成と配布 ○全国学力・学習状況調査実施と自己採点 ○市内統一学力検査・学校独自の学力検査実施 | | ○教務 ◎教務 ○教務 ○教務 | ◎ ◎ ◎ |
| 4月～3月 | ○朝学習、放課後学習、チャレンジテストの取組 ○チャレンジテスト等の校内分析 ○家庭学習状況の把握と意欲を喚起する取組 | | ○教務 ◎教務 ○教務 | ◎ ◎ |
| 5月 | ○全国学力・学習状況調査分析と改善策 ○中学校との学習面での交流 ○生活リズムチェックシート実施と考察 ○児童アンケート実施と考察 | ◎ | ◎教頭、教務主任 ○教務 | 全 ○ |
| 6月 | ○各種学力調査等を踏まえた個人・学級課題の明確化と改善に向けた取組 | | ○教務 | ◎ |
| 7月 | ○到達目標の検証と課題の共有・保護者への啓発 ○児童アンケートの実施と考察 ○市内統一学力検査・学校独自の学力検査分析 | ◎ | ◎教務 ◎教務 | ○ ○ |
| 8月 | ○学校改善プランを位置付けた学級経営反省と交流 ○長期休業中の補充学習 | | ○教務 ◎教務 | ◎ ○ |
| 9月 | ○学校改善プランの中間検証 | ◎ | | |
| 10月 | ○生活リズムチェックシートの実施と考察 | | ○教務 | ○ |
| 12月 | ○到達目標の検証と課題の共有・保護者への啓発 ○学校評価実施 ○児童アンケート実施と考察 | ◎ | ◎学校評価委 ◎教務 | ○ ○ |
| 1月 | ○長期休業中の補充学習 ○学校評価集計、考察提示 ○学校改善プランを位置づけた学級経営反省と交流 | | ◎教務 ◎学校評価委・分掌 ○教務 | ○ ◎ |
| 2月 | ○学校関係者評価実施 ○学校評価結果地域保護者へ公表 ○錦岡小学校への引き継ぎ | ◎ | ◎管理職 ◎管理職 | ◎ |

6 検証方法

- (1) 全国学力・学習状況調査(6年)
- (2) 市統一学力検査(4～6年)、学校独自の学力検査(2・3年)
- (3) チャレンジテスト(全学年)
- (4) 生活リズムチェックシート(全学年)
- (5) 児童・保護者アンケート、職員自己評価、学校関係者評価